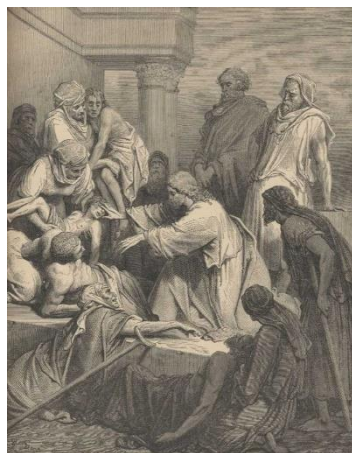


按手

知っておきたいキリスト教のことば (11)

按手とは「手を置く」という意味で、キリスト教の中で用いられる用語です。旧約聖書の中にも、手を置く場面は出てきます。例えば民数記 27 章 18 節には、モーセがヌンの子ヨシュアを後継者として任命する際に、頭に手を置く場面が出てきます。

新約聖書の中では、イエス様が病人をいやされる場面に多く見られます。また子どもを祝福する時に、手を置く場面も描かれています。この動作は今でも受け継がれており、病氣の方に按手をしたり（日本聖公会祈祷書 332 頁）、子どもを祝福する時に頭の上に手を置いたりするのは、イエス様のなされたことに由来しています。



また聖書には、聖霊を与えるために按手をおこなっていたという記述もみられます（使徒言行録 8：17、19：6）。聖公会でおこなう堅信式は、すでに洗礼を受けた人が道理をわきまえることの年齢になったときに手を置く式で、聖霊の特別な恵みを願い求めるものです。

さらに主教・司祭・執事に叙任される聖職按手式においても、手を置くことによって聖霊が注がれることを祈り求めます。この礼拝は、使徒言行録にあるステファノたち七名を選出した時の按手を思い起こさせます。

さて、初代教会から続くこの「按手」という儀式ですが、もともと按手をおこなうことができるのは使徒に限ったことではありませんでした。また、按手をおこなう人の賜物が、按手を受ける人に移るといってもありません。按手によってその人に授けられるのは人間的な能力ではなく、その人にとって必要な力、神さまのご用をおこなうためになくしてはならないものです。それを神さまがわたしたちにくださるということ、心に留めたいと思います。

次回は「安息日」です。お楽しみに。